

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 1171100629 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人椿寿会 | | |
| 事業所名 | シニアレジデンスつばき | | |
| 所在地 | 埼玉県北葛飾郡杉戸町才羽2123 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年12月28日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号 |
| 訪問調査日 | 令和5年1月17日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物は平屋建てで1ユニット9名で2ユニットあり、互いに交流できるような作りになっています。周りが田園に囲まれており、お米が育つ春から秋にかけての緑の美しさは、利用者だけでなくご家族様からも好評を得ています。季節毎の行事では、コロナ禍でご家族様やボランティアは中止しているが、スタッフ一人ひとりが楽しんで頂けるようゲームや料理などを考え取り組んでいます。また、小さい畑では、野菜を育て、収穫を楽しんでいます。食べる時にも、つばきで収穫した材料ということで、再度楽しむことができます。新型コロナウイルスが流行してからは、外部の方との面会の機会も少なくなっている状況のため、利用者だけではなく、ご家族様についても安心して頂けるよう寄り添ったケアを心掛け、これからも支援していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「季節を感じることでできる生活作りを支援します。日常生活の中で、身体機能の維持ができるように支援します。」の理念のもと、経験豊かな職員を中心とした良好なチームワークのもと、利用者の思いとその人らしさを大切に、健康で明るく、生き生きとした利用者の暮らしに結び付けられている。
 ・運営推進会議については、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や入居者の状況を書面にまとめ、会議メンバーに配布し意見を伺い、会議の代替えとされている。会議メンバーとは書面手交の際や電話連絡時などで意見交換が行われ、事業所運営やサービスの向上に活かされている。
 ・目標達成計画の達成状況については、前年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、定期訓練では訓練未経験職員を中心に、風水害の発生を想定し、車3台を使用し、指定避難場所までの避難訓練に取り組まれている。また、食料・器材などの備蓄品の点検整備などにも取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝の申し送り後、「介護理念・運営理念」を唱和し確認している。 | 「季節を感じることでできる生活作りを支援します。・日常生活の中で、身体機能の維持ができるように支援します。」の理念のもと、利用者の思いを大切に、食事づくりや掃除など家事を担当されたり、レクリエーションを楽しみ、利用者の活き活きとした日々の暮らしに結び付けられている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在コロナの状況にあり、地域の方との交流の機会はもてていない。 | 最近では自粛をされているが、事業所周辺での散歩の際には地域の方と挨拶を交わされるほか、初詣、公園や買い物に出かけられるなど、利用者が地域との関わりを持ちながら暮らし続けられるよう支援をされている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営会議で地域の方やご家族、役場の方に理解して頂けるよう努めているが、コロナの状況で書面での対応であり会って話すことなどは行えていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 書面対応で現在は行っており、つばきの報告後に質問があった場合は、その都度検討し報告をしている。 | 現在は書面での報告がなされ、行政ほか会議構成メンバーに送付し、情報の共有を図られると共に、意見・アドバイスを受け、事業所運営やサービス向上に活かされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 役場の担当者より、助言・指導を頂いている。今年、つばきでも数回コロナに感染している為、その都度連絡をしている。 | 報告・連絡・相談時などでコミュニケーションを図られるほか、介護相談員の受け入れや抗原キットの支給など、良好な連携関係を築かれている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 運営推進会議と同時期(2、5、8、11月の年4回)に身体拘束委員会を行い、職員間で理解を深めている。玄関については、外部からの侵入の観点もあり施錠している。 | 身体拘束廃止委員会が定期的に行われている。その機会に拘束に関する学びの時間をもち、身体拘束の内容とその弊害を確認、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアを実践されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 外部研修(eラーニング)で個々に組み込み学ぶ機会を作っている。身体拘束委員会でも、虐待についての確認も行っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用している方もいるため、研修で学ぶ機会を持っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 見学時や契約時に説明を行っている。疑問に思っていることや、不安についても対応している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナの状況にあり、ご家族様が面会に来ることは少なくなっているが、受診時やケアプラン送付時、電話やお便りなどで連絡を取るようになっている。 | 入居者とは日々の関わりの中で聴き取り、適宜対応されている。家族とは面会時や電話連絡時などで意見・要望を聞き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、サービスや運営に活かされている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のカンファレンスで、意見を聞いている。 | 定例会議などで意見・提案を聴きとられている。また、発言し易い職場環境がつけられ、おやつ作りや個別ケア対策など、具現化されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の努力や実績については、その都度把握し考慮している。シフト面でも配慮し、働きやすい環境づくりを務めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修で「eラーニング」を取り入れ、基礎研修以外に、個々の勤務年数やレベルに合わせてカスタマイズした研修を受けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍であり、交流の機会は少なくなっている。eラーニング以外の研修も、配信型が多くなっている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 何を困っているか？不安に思われていることはどんなことか？今までの経緯などの話を傾聴し、関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 最初にご家族様の困っていることなどを伺い、その後、つばきでできることなどの説明を行い信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 何を必要とされているのか見極めるうえで、ご要望をよくお伺いしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来ることは行って頂き、支援が必要な部分は一緒に行いながら、信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍で面会や行事参加もなくなっているため、月1回のお手紙で最近のご様子をお伝えしている。体調の悪い時などは、直ぐに連絡し、その後の様子も細目に連絡するなど信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍により、事前連絡のご家族様だけの面会対応をとっている。利用者から希望があった場合は電話での対応をしている。 | 最近は無言されているが、知人の面会を受けたり、近くの神社への初詣、馴染みの公園に花を見に出かけられるほか、家族の協力を得て外出されるなど、これまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日々の様子を伺い、一人一人の性格や言動を理解し、利用者同士良好な関係が築けるような支援に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、電話で相談して来られる方もおり、相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者それぞれの意向や思いに寄り添えるよう努めている。 | 利用者一人ひとりに寄り添い、声かけを行うことで、思いや意向を把握されている。把握の難しい利用者についても、非言語コミュニケーションも大切に、しぐさや様子から汲み取られるほか、家族からの情報提供を頂き、利用者本位に検討をされている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族様や利用者本人から、今までの暮らしの話を伺い情報収集をしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送り(一日2回)や日誌、個人記録から現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1回の担当者会議でケアの改善点について話し合い、介護計画を作成している。 | 利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、全職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、きめ細かな介護計画が作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | チーム内で情報を共有してケアの向上に取り組んでいる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 新たに生まれるニーズに対応するため、個々のニーズを正確に捉え、対応できるよう取り組んでいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍のため、ボランティアの方々の要請は停止している。毎日のレクリエーションについても、密にならないようにしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所以前から受診しているかかりつけ医を基本としているが、ご家族様の希望も伺い、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 入居時に利用者・家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援は家族対応を基本とするも、職員同行も適宜行なわれ、必要な情報提供を行ない、適切な診療が受けられるよう支援をされている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師がいないため、協力病院に助言を求め指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は面会に行き、ご家族様・病院関係者等に情報を求め、安心して戻れるよう声かけをしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に説明をし、重症化した場合には主治医に指示を受けながら、支援に取り組んでいる。 | 利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思の確認を進めながら、医師・看護師と連携のもと、重度化や終末期支援に取り組まれている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時に職員が対応できるよう、マニュアルを掲示している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | コロナ禍により、年2回の消防訓練・避難訓練は、消防職員は要請していない。必要な器具を借りたり、通報対応はお願いしている。また、疑問点などは申請や報告時にご指導して頂いている。 | 定期訓練では訓練未経験職員を中心に、風水害の発生を想定し、車3台を使用し、指定避難所までの避難訓練に取り組まれている。また、食料・器材などの備蓄品の点検整備など、体制整備に努められている。 | 災害対策には十分取り組まれています。高齢の利用者を預かる事業所として、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。 |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 声かけの仕方や、言葉使いに注意している。 | 一人になりたい時には居室で過ごして頂くなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心や個人情報の取り扱いなど、きめ細かな対応がとられている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者の言葉、希望については、その都度傾聴し対応しているが、コロナ禍で思いを叶えることが難しい場合も多くなっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの希望に沿ったその日の過ごし方を支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1度、美容師の方に来て頂いている。季節毎に洋服を入れ替え着て頂いている。可能な利用者と一緒に衣替えや整頓を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食前食後のテーブル拭きや食器拭きなどを、一緒に行っている。コロナ禍で参加して頂くことが難しい場合もある。 | 利用者の状態に合わせて、テーブル拭きや後片付けなど、職員と共に行っている。利用者の希望に沿い鰻やお寿司を出前されるほか、畑で収穫した里芋やじゃがいもなど、旬の食材として楽しめるなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事を摂りにくい場合など、栄養価の高い補助食品を使用するなど、一人一人に合わせた食事を提供できるよう心掛けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、食堂にて見守りしながら口腔ケアを行っている。毎週金曜日に訪問歯科を導入しており、利用者のケア以外にも、月1回の職員指導もっている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿意を感じられない利用者がトイレでの排泄を維持できるように、夜間オムツを利用している方でも日中は定時でのトイレ誘導を行っている。 | トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、事前誘導を心掛けるなど、きめ細かなケアをされ、負担軽減と自立に向けた支援が行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便チェック表を作成し、個々に合わせた方法で対応している。協力病院にも相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴時間は午前中となっているが、気の合う方と重なることができるように対応している。基本的に曜日は決まっているが、体調や受診などの個々の状況で変更するなどの対応を行っている。 | 利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応されている。現在の一部利用者の状況から湯船につかることは出来ず、シャワー浴となっているが、職員複数での介助など、安全で安心な支援体制のもと入浴を楽しまれている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 快適な室温を保ち、常に清潔な寝具を提供できるよう心掛け、気持ちよく眠れるよう支援している。コロナ禍で、食堂については、多数の利用者が集合していることから常に換気をしているため、以前より寒く感じる利用者もいる。レッグウォーマーやひざ掛けなどを使用して対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 一人ひとりの薬の目的を把握し、服薬時には2人で対応し、誤薬がないように気を付けている。服薬後の様子確認も注意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | コロナ禍で、食事作り自体は職員が行っているが、生活の中での役割が持てるよう、食後の片付け、洗濯物干し、洗濯物量み、掃除などお願いしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で、受診以外の外出はあまりしていない。密集しない公園を選んだり、つばきの周辺などの散歩や外気浴などを行っている。コロナ前は、外出支援として、一人ひとり順番に希望を叶える日を作り対応していた。 | コロナ禍で限定されるが、事業所周辺での散歩やお花見ドライブ、庭での日光浴や畑仕事など、外気に触れる機会を持つよう支援をされている。 | コロナ禍で外出ができていない中、日に2回のストレッチ体操など取り組まれているが、利用者のADL低下防止とストレス発散に向けた機会を多く持つ取り組みに期待します。 |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在は外出を控えているため、買い物に出かけることが少なくなっているが、靴の購入や衣類の購入など、本人が希望する方には、お店のすいている時間帯などに行くなどして支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望がある時は、事務所の電話を利用して家族と連絡を取っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | コロナ禍であり、食堂テーブルを増やして、間隔をあげて座れるようよう配慮している。季節にあわせた空間づくりを心掛けている。 | リビングには、正月飾りや節分祭の貼り絵が飾られ、利用者が季節を感じながら、気持ち良く過ごせるよう工夫をされている。また、換気や什器類の消毒、アクリル板の活用、職員の体調管理など、コロナ対策が徹底されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者同士で、会話を楽しめるような席の配置を心掛けている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が自宅で使い慣れた物を置いたり、好きな物を飾ったりして、安心できるような工夫をしている。 | 馴染みの寝具や家族の写真、趣味の雑誌や塗り絵が飾られるなど、利用者が落ち着いて生活ができるよう工夫をされている。また、転倒リスクの高い利用者のベッドの配置を工夫されたり、保護ラバーの敷設など、安全策が取られている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内は段差がなく、可能な範囲で手すりが配置されている。自立して安全に過ごすことが出来るように見守りながら転倒防止に努めている。 | | |

(別紙4(2))

事業所名:シニアレジデンスつばき

作成日: 令和 5年 3月 6日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 職員一人一人がマニュアルを見ないでも、避難対応ができるよう繰り返し訓練を行う。 | 災害に対しての意識を常に持ち、対応することができるよう、組織対応力の向上に努める。 | 年間を通して平均的に訓練を行い、避難計画マニュアルを見ないでも避難することができるよう繰り返し訓練を行う。 | 12ヶ月 |
| 2 | 49 | コロナ禍で外出の機会が減り、室内で過ごすことが増えていることが、利用者のADLの低下やストレスにつながっている。食事や買い物、行きたいところなどコロナ禍で我慢することが多くなっていたことが大きい。毎月行っていたパドル体操も中止。 | 利用者のADLの低下防止とストレス発散の機会を多く持てるよう取り組む。 | 個々の希望を洗い出す。外出希望の利用者には個別や少人数で対応することで、感染リスクの軽減に努める。つばき建物周辺の散歩だけではなく、公園などを利用して他とのふれあいの機会を持つ。縮小していたイベントを少しずつ元のように皆で楽しむことができるように検討し行っていく。 | 12ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。